

県仏通信

第20号

新潟県仏教会会報
平成31年3月20日発行
発行人・編集人 寺崎敬道
会 長 寺崎敬道
事務局長 山口智史
事務局〒957-0055
新発田市諏訪町2-4-17 宝光寺
TEL 0254-22-4376
FAX 0254-20-7943
postmaster@hokoji.net

ご挨拶

新潟県仏教会会長

寺崎 敬道

「県仏通信20号」の発行が遅くなりましたことをまずお詫び申し上げます。

各位にはますますご清祥にてご接化ご多端、ご活躍のことと敬意を表する次第です。

さて、県仏を預かってまもなく2年になります。人生がすべからくそうであるように、過ぎてしまえば、あつという間だったような気がします。そんな2年間でさまざま貴重な体験をいたしました。

畠中光亨画伯の講演会(新潟市仏教会の勉強会)、興福寺の寺宝と畠中光亨展(新潟市新津美術館)、公益財団法人全日本仏教会財団創立60周年記念式典および第44回全日本仏教会協議福島大会、世界仏教徒会議日本大会、いのち・愛・人権(阿賀野・糸魚川)展、越佐にんげん学校など、そのたび考えさせられ、学ぶこと

ができました。そのおかげでいささか成長できたような気がしております。

このような体験をたまわった会長の任期もこの3月末までですが、皆さまに異存がなければもう一期2年を勤めたいと思っております。

ところで、この2年間で県内寺院が減少していく事象とご朱印に関して2回ずつ、新聞社とテレビ局にインタビューを受け、そのうち1回テレビに出演し、また顔写真入りで新聞にも掲載されました。

地方の過疎によって寺院が減少していくことはマスコミにも度々取り上げられ、各宗派内でも問題になっていることと存じます。私も曹洞宗でも、宗務庁に「過疎地域等における宗門寺院の問題に関する対策準備室」があり、これは近いうちに対策室に格上げされ、本格的に動き始めるようです。これに対しては、10年以上も前からこのような

状況になることはわかっていたのだから、遅すぎる、という批判もありますが、始めなければ始まりませんから一刻も早く稼働して有効な対策を打ち立ててもらいたいものです。しかし、これが生易しいことではないことは誰もが直観的に理解しているのではないのでしょうか。宗教法人の解散や合併のマニュアル作りで終わることのないように願っています。

さて、人口減少というのは地方に限ったことではなく、6年後の2025年には東京でも人口が減り始めます。人口減少は日本全体の大問題であり、周知の事実でもありません。しかし、具体的にどのようなことが起き、どのような状況になるのか、私を含めどれほどの人がイメージできていますでしょうか。

人口問題はじわじわと顕在化してきます。水に入ったカエルは、徐々に熱せられると水温の上昇に気づかず、ゆであがってしまうといいますが、それと同じです。あるいは、その頃には私は生きていないから、と思わす停止で終わるのがオチかも知れません。私も心のどこかでそのような考えている節があります。葬式や法事の布施を主な収

入源にしている一般のお寺は、私の寿命が尽きる確率の高い2040年頃までは死亡数が激増しますから、それに応じて葬儀も法事も増えて収入も増えていくはずですが、ただし、この間にますます儀式が簡略化し、寺院離れが進めば、この限りではありませぬ。檀信徒の経済状況も向上しないでしょうから、このような状況になる確率はかなり高いと予想されます。だからこそ、この20年ほどはますます檀信徒の教化に励み、自覚ある仏教徒を育てていかなければならないわけで、各寺院の努力が試される時代といつてよいでしょう。

しかし、この後は一寺院、一僧侶の努力で何とかなるような状況ではないのかも知れません。また、私のような年代の者は隠居するか、そもそもこの世にはいないと思えます。

したがって、今こそ若い力が必要です。三十代、四十代の僧侶に研鑽と活躍の場を与えることが重要であり、私たちの、また県仏の役割の一つでもあると考えます。微力ながら、あと二年精進してまいる所存でございますので、ご協力ご指導のほどお願い申し上げます。

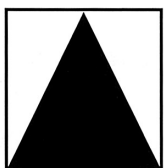
つながるおもい、

つたえるところ。

よし

うん

どう



YOSHIUNDO

吉 運 堂

本社 新潟市南区戸頭1347-1 TEL 025(372)1138(代)

www.yoshiundo.co.jp

寺院用具 | お仏壇 | 墓石

新潟県で
No.1 ・22店舗ネットワーク
・専門資格保有数237名

第29回WFB世界仏教徒会議 日本大会・世界平和祈願法要

会長 寺崎 敬道

昨年11月5日から9日まで、第29回世界仏教徒連盟(WFB)世界仏教徒

会議日本大会が開催されました。この大会は、全日本仏教会の財団創立60周年記念事業の一環として開催されたものです。ちなみに、WFB大会の日本開催は今回で4回目と

のことです。
11月5日から8日まで、マロウドインターナショナルホテル成田で、WFBやその下部組織である世界仏教徒青年連盟(WFBY)や世界仏教徒大学(WBU)の委員会や会議が催され、最終日の9日に曹洞宗大本山總持寺にて世界平和祈願法要とシ

ンポジウムがおこなわれました。

本会からは最終日の法要とシンポジウムに会長と事務局長の山口智史が参加いたしました。

午前中に大祖堂において、全日仏会長の總持寺



Arkbell

伝えたい思い 伝わるご葬儀

ご葬儀はアークベルのセレモニー



ご葬儀は365日24時間対応

アークベルのセレモニー

検索

貫首江川辰三猊下導師のもと、大般若会(転読大般若)が厳修され、世界平和が祈願されました。

午後からは三松閣において、シンポジウムが開催されました。

まず、「生死の中に見出す希望」というテーマのもと、ジョアン・ハリファックス師が「いま求められる、『智慧にもとづく希望』とは」と題して基調講演をおこないました。師は禅僧であり、文化人類学者として終末期ケアの先駆者でおられるとのことでした。

師は冒頭で唐代の禅僧瀧山靈祐(771-853)とその師匠の百丈懷海の問答を紹介されました。

火はないと瀧山が断じたいろりの中から百丈は残り火を掘り出し、それを見て瀧山がさとったというエピソードです。

反戦運動や公民権運動、

医療従事者の訓練などは、このエピソードのようなもの。自分の行動が将来何につながるかはわからない。しかし、変わることを信じ、何かできることを信じ、「智慧にもとづく希望」を持ち続けやり続けることが大切。百丈が残り火を見つけたとき、瀧山の人生は無限に広がった。

欲望や苦しみから自己を解放し他に広げること、これは誓願によって生きることであり、これが「智慧にもとづく希望」である。

そして、この「智慧にもとづく希望」は個人の意識を変え、社会を変革していくのだ、ということをこの講演から学びました。基調講演の後、二人の禅僧がスピーチをしました。

一人目は、根本紹徹師。14年間の自殺念慮者や自

死遺族たちとの語り合い、さまざまなワークショップやイベントをおこない、そこで得たことを伝えてくださいました。

二人目は、久間泰弘師。東日本大震災の被災地で災害復興ボランティア活動・コーディネートをおこなってこられました。特に、被災地のこどもたちの現状―自死、いじめ、望まない妊娠など―について述べられ、震災はまだまだ終わっておらず、



不要に人を傷つけない智慧を身につけていくことが必要と結ばれました。

最後に、戸松義晴師(全日仏事務総長)のコーディネートで、フリートークがおこなわれました。ケスネ・タナカ師による上記の講演に対するコメントを皮切りに、講演をおこなった三師のコメントが続き、タナカ師が締めくくってシンポジウムが終了しました。



お仏壇・墓石
供養用具・記念碑

鈴木佛壇店

白根本店

新潟市南区白根日の出町 10-8 TEL.025-373-4155

墓石展示場

白根本店真向い

新潟小針店

新潟市西区小針4丁目5-13
TEL.025-233-3135

長岡店

長岡店古正寺3丁目107番地
TEL.0258-29-6400

五泉店

五泉市粟島 634-4
TEL.0250-47-3668

仏壇工場

新潟市南区白根日の出町 10-8
TEL.025-373-3636

石材工場

新潟市南区茨倉根 2167-1
TEL.0120-333-721

www.suzukibutsudan.co.jp/

鈴木仏壇店 検索

仏教界随一の団参専門機関



新潟ビーエス観光

〒940-0041 新潟県長岡市学校町3丁目12-4

TEL 0258(34)4848 FAX 0258(34)0227

ホームページ <http://niigata.bs-group.jp/>

E-mail niigata.b.s@jeans.ocn.ne.jp

- ◆ 越後三十三観音霊場巡拝の旅
- ◆ インド仏跡巡拝の旅
- ◆ スリランカの旅
- ◆ 四国八十八ヶ所霊場巡拝の旅
- ◆ 西国三十三観音霊場巡拝の旅
- ◆ 坂東三十三観音霊場巡拝の旅

越佐にんげん学校

優生保護法問題から
考える差別の構造(敬和学園大学教授藤野豊氏、
新潟市北区文化会館、
平成30年6月28日)

事務局 青木 泰洋

優生保護法問題とは、旧優
生保護法(1948～1996)のも
とで障害者への強制不妊手術
が行われていた問題である。

旧優生保護法「第一条」に
『優生上の見地から、不良な
子孫の出生を防止するととも
に、母性の生命・健康を保護
することを目的とする』とあ
ります。つまり、優生思想を
もった法律でした。障害者や
ハンセン病患者に、中絶や不
妊手術をさせる条文があり、
いわば人権を侵害する法律な
のです。

「優生思想」とは、障害の有
無や人種などを基準に人に優
劣をつけようとする思想で、
この思想を持った法律が五十
年近くも存在し最近まであっ

たことは驚きで、法律が存在
すること自体が差別や偏見を
作ってしまったといえるで
しょう。

なぜこのような法律ができ
たかという、戦後、食糧不
足、家不足、国としては人口
を減らしたかった。生まれる
子供の数を抑えたかった背景
があり、人口政策でもあり優
生政策でもあった。

「公益」の名の下でおこなわ
れてきた強制不妊手術、今全
国各地で被害者の声があがつ
てきています。

講演者、藤野豊先生には優
生保護法の歴史、背景、現状
をお話いただき、差別の構
造、問題点をわかりやすく教
えていただきました。「障害
を持つて生まれたら不幸」「障
害は遺伝する」というような
偏見が優生思想の影響からう
まれ、今も根深く残っている
現状、優生保護法が広く社会
に与えた影響、差別の構造を
勉強する機会となりました。

様々な差別の原点は「思い
込み」や「間違った思想がほ
んどである」といいます。イ

ンターネットが発達した現代
だからこそ、あふれかえる情
報を取捨選択できる正しい知
識を身に付けることが我々に
は必要でしょう。

これまで沢山の差別があり
ました。未来はどうなるので
しょう？差別は残ったままで
しょうか？その責任は今を生
きる私たちが背負っているの
でしょう。差別を解消させる
にはまず学ぶことが必要で
す、そして反省から次に行う
ことを考える。それをするの
は私たちであり私たちが未
来を変えていく必要がある
と思います。あらゆる差別や
偏見が無くなるように。

「部落差別から
生じる結婚差別」
を拝聴して
事務局 本田 義昌

平成三十年九月二十六日、
聖籠文化会館にて講師に西山
恵美先生をお迎えし、御自身
が経験された部落差別におけ
る「結婚差別」を拝聴した。

西山先生が「この人」と感じ
た男性と結婚寸前にまで発展

したものの婚約者の男性のご
両親のお宅へ挨拶に伺ったと
ころ何だかきこちなく、その
後、大好きな彼は結婚の意識
から遠のき破局した体験を
伺った。

後日、人伝えに聞いたらし
いのだが、婚約者の母親が講
師の西山先生の住まいを知る
と猛烈に反対し『あんな地域
で育った娘を嫁に貰っては、
ご近所に恥ずかしくて顔向け
できない』と反対され、婚約
者の彼も最初は両親を説得し
ていたそうだが根負けをし
たということ。

今年四十二歳になる私も小
さい頃には「部落差別をなく
そう!」という看板を見たこ
とはあるが、詳しく内容が分
からずに、この歳まで来てし
まった。私自身「かつてはあつ
た話なのだろうなあ」としか
認識していなかったのが正直
なところでした。

ですが講師の西山先生は私
と同年。それを聞いた瞬間
に衝撃が走った。三年間お付
き合いをした彼と婚約が破綻
したのが二十二歳。とすれば

社寺、一般屋根工事請負



有限会社

いらか

業 工 薨

〒959-2221 新潟県阿賀野市保田6099
TEL (0250) 68-7100 FAX (0250) 68-7111

瓦の美しさを出せる

工事店です。

本掛け、本瓦、棧瓦葺き、

棟は京風、奈風、

ご要望に応じます。

私も大学を卒業し自坊に戻って来ていた平成十二年のこと。今から約二十年前の話ではあるが、平成の世の中であり、ついこの間の話でもある。またこの差別問題は水面下で動く話である性質上、現在でも存在しているかも知れない話でもあると感じさせられた。

「昔前の話でしょ?」と簡単に済む話でもない。

私自身も過去の恋愛で相手方の御両親に「結婚をさせて下さい」とご挨拶に伺ったところ『普通の方になら、どうぞもらって下さい』とお願ひするが坊主には娘はやれない』と言われた経験がある。それでも諦めずに二人で頑張った記憶がある。

お相手の女性の方は、実の両親に面と向かって立ち向かうのだから胸が苦しかったことだろう。本当は一番に賛成して欲しかった筈の御両親に反対され成すすべも無く結局は破局した経験があった。

同じような経験があるからこそ他人事とは思えず「我が

事」として拝聴させられた。

何事もそうだとは思いますが「他人事では物事は進まない。」我が事にならずには解決の糸口さえも見つからない。

西山先生の最後の結論と同調するが、「自分が変わることでよって今現在(この瞬間)は変わらずとも、この先の未来には自らが進むべく方向、最も良い方向にお導きを頂けるように今は頑張るしか手立てはない。」

西山先生も一旦は「引き籠り」になってしまわれたそうだが、同じような経験をした友達と意見交換。「こんなことで苦しむ人を少しでも減らす為の活動をしよう」と組合を発足。現在に至るが、実はここに行き着く活動も「活動する時点」で「あそこの部落の娘が生意気にこんなこと言っていたぞ!」と先生のご家族も差別の攻撃を受けていたそう。つまり相当な覚悟と勇気と決意が必要だ。

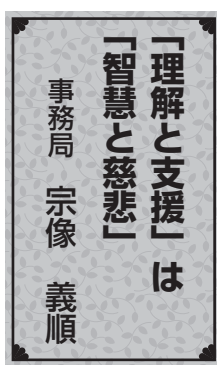
部落差別の問題は落ち着いているのか? いないのか? 皆が親身にならなければ、こ

ういった問題はデリケートな部分なので見えて来ないのかもしれない。だが皆が意識を持てば、すぐにでも「部落差別などくだらない問題」とも気づくのではないかと考える。

「過去の経験があるからこそ、今現実を生かせる。」

我々も「自分の足元を省みることが何かの問題に直面した時に、より親身に、そして僧侶としての対応が備わり、傷ついた心を持つ人の救いになれるのではないかと考えさせられた。」

まずは興味をもって知るところを念頭に進んでいきたいと思う。



昨年の10月16日、新発田市生涯学習センターにて、角田千里さんの御講演を聴いて参りました。演題は、「発達障害を持つ方たちの就労『スタンバイ』の取り組み」。認定N

PO法人にいがた・オーティズム理事長をお務めの角田さんは、発達障害を持つ方たちへの様々な支援活動をされています。平成22年「年に地域活動支援センター「スタンバイ」を開所、その2年後には就労移行支援へ体系移行され、現在のワーキングサポートセンター「スタンバイ」へとなりました。

角田さんのお話の中で私が印象に残ったのは、「『支援』ではなく『理解』を」という言葉です。角田さんの様々な支援活動の裏には、当然ながら障害に対する深い理解があります。発達障害とはどういう障害なのか? どういうことが出来なくて、どういうことが出来るのか? 出来ないことを補うためには、どのような教育や訓練が必要なのか? 例えば、就労するにあたり問題となるのが、仕事で自分の判断で「選べない」「決められない」「予測できない」ということ。そこを補うために、いつからいつまでという「時間」、どこからどこまでとい

県内唯一の伝統継承

木地・彫・金具・塗・蒔絵
お仏壇全工程自社製作



福宝

経済産業省公認

石匠位
認定店



本社/新潟市南区根岸 1511 Tel 025-362-1658(代)

- 経済産業省公認 石匠位認定店
- 1級お墓ディレクター 16名(県内No.1)
- 2級お墓ディレクター 122名(県内No.1)
- 仏事コーディネーター 102名(県内No.1)

う「粹組」、終わったら次は何があるかという「見通し」、これらの情報をしっかり伝え、環境を作ってあげることが大切であるとのこと。正しい理解があればこそ、何が必要であるかが分かり、的確な支援が出来るのだと思いました。

これは、仏教では「智慧」と「慈悲」の関係にあたるでしょう。自我を中心としない正しい見方(智慧)が生まれると、自ずと与楽抜苦の思い(慈悲)も生まれる。智慧に基づいた慈悲であり、理解に基づいた支援であるのだと感じました。自分の無知さを含め、多くの学びがあった大変貴重なお話でありました。ありがとうございました。

第33回

人権啓発研究集会

事務局 関根 正隆

2月6日、7日に人権啓発研究集会が新潟市で開催されました。私は県仏教会の事務局として参加をさせていただきました。

会場は朱鷺メッセの展示ホール。有名なアーティストのコンサートも開かれる大きな会場でした。当日は2600名程の人でほぼ満席。県外からも2000人近い参加があったそうです。オープニングセレモニーでは、伝統芸能の佐渡の春駒(はりごき)が演じられ、続いて、部落解放同盟新潟県連合執行会長の長谷川均さんのお話がありました。長谷川さんからは新潟の解放同盟の歴史と新潟県の現状などが語られました。そして、憲法学者の木村草太先生(首都大学東京教授)の講演がありました。報道ステーションなどでもコメントーターとして登場される木村草太教授は、「憲法の未来」と題して、各国の憲法と日本国憲法の比較や、人権や権利と義務について、とても明確にかつ分かりやすく講演されました。「平等」と「差別」の違いなど、普段何気に使っている言葉の示す意味の違いなど、端的に教えていただけた講演でした。

翌日は、新潟水俣病やハンセン病問題など様々な差別問題が分科会の形をとって、新潟市の各会場で開催されました。私は1日目だけの参加でしたが、とても有意義な時間をいただきました。

「命を守る C型肝炎新潟の会」 について

「命を守るC型肝炎新潟の会」(佐藤つな子代表)は昨年設立10年を迎えました。

この会は、過去に使われた血液製剤などからC型肝炎に感染したとする患者の会で、約80人が在籍しています。

C型肝炎は感染から10年以上経過してから発症する病気であるにもかかわらず、カルテの保存義務が5年間であるため、発症時にはカルテのない患者が多いのです。現行法では汚染された血液製剤の投与を立証することが求められており、いまだに多くの患者が対象になっていません。

そのためこの会では国の関係機関や県に患者の救済・償

いを働きかけ続けてきました。昨年12月には新潟県庁で花角英世知事と面会し、要望書を手渡しました。その内容は次の4項目です。

- ①現在の担当医の証明によつて認定を可能にする法改正
- ②既存の制度で救済を受けられない患者を対象とする医療費助成制度の創設・拡充
- ③早期に取得・適用が可能となる障害者手帳の運用改善
- ④C型肝炎についての教育・啓発

佐藤代表は花角知事に対し、「人を救うための法律が私たちを苦しめており、悔しい。国に意見を伝えてほしい」と訴えました。

この会では、正会員(治療でウイルスが消えた人を含むC型肝炎患者)、準会員(C型肝炎患者の家族または遺族)、賛助会員(会の目的に賛同いただける人)を募集しています。(問い合わせ)佐藤代表

☎080(2040)0068

寺院用仏具・仏壇・墓石・製造修復販売



株式会社

放 光

● 本社・工場 〒940-0825 新潟県長岡市高畑町 617

TEL 0258 (33) 5644 ☎ 0120-174176

● 長岡キヨリ-

0120-505-560

● 新潟店

0800-888-9872

花まつりデザイン大賞作品をポスター・絵はがき化！

みんなで飾って・送ってお祝いしよう♪

花まつりポスター・絵はがき頒布開始

全日本仏教会では、お釈迦さまのお誕生日や「花まつり」を知っていただくために、ポスターと絵はがきを頒布しています。今回も一般公募による作品を使用し、ポスターと絵はがきを作成いたしました。

華やかで色とりどりの作品が、お釈迦さまのお誕生日を盛大にお祝いしています。

寺院や地域で開催される「花まつり」や春のイベント告知に活用していただき、また、お祝いや春のご挨拶、日ごろの感謝を伝えるツールとしてご使用くだされば幸いです。少数でもお気軽にご注文ください！



花まつりポスター大賞(左)

「花まつり」

花まつりポスター全仏版(右)

「国宝 誕生釈迦仏立像」(東大寺蔵)



花まつり絵はがき大賞作品

「微笑みの華」(左)「みんなの花まつり」(中央)「おてんとうさまとおしゃかさま」(右)

■ポスター■

○サイズ

A2 サイズ(縦 59.4 cm × 横 42 cm)

○ポスター代金

各 種 50 円/1 枚 (別途、送料が必要です)

■絵はがき■

○サイズ

両観音折本(3 枚 1 組)

○絵はがき代金

無 料 (別途、送料が必要です)

お申し込み・詳細は web をご確認ください。

<http://www.jbf.ne.jp/activity/2510/3482/3728.html>

◆問い合わせ◆ 公益財団法人 全日本仏教会 広報文化部 03-3437-9275

創ることにこだわり続ける廣川だから
お客様と世代を越えて
おつきあいさせていただきます。

◎全宗協加盟・仏壇公正取引協議会々員・仏匠会々員 JAご指定

金仏壇製造元 | 御家庭之尊厳 | 寺院用荘厳具・仏具取扱

お仏壇と墓石の 廣川

◆本社ショールーム

〒940-2035 長岡市関原町5丁目5番地
☎0258-46-2020(代)

◆上越店

☎025-525-6660(代)

◆小出店

☎025-792-8424(代)

◆墓石展示場



☎0258-47-2010

2019 年花まつりポスター・絵はがき申込用紙

2019

FAX 番号:03-3437-3260

1.ポスター(A2 サイズ)・絵はがき(3 枚 1 組)申込枚数 (※ 注文されないものには、「0」とご記入ください)

1:花まつり(50 円) 	2:国宝 誕生釈迦仏立像(50 円) 	ポスター 合計枚数	花まつり絵はがき(両観音折本)(無料) 
枚	枚	枚	枚

2.ご購入者様情報 (「※」は必須項目です)

フリガナ			
※お名前	(団体でのお申込みの場合は、ご担当者名もご記入ください)		
※送付先住所	〒 -		
※ご連絡先	TEL:	FAX:	
備考	請求書及び払込用紙送付希望先・配達希望日などございましたら、ご記入ください		

※請求書及び払込用紙(郵便局)は、ポスター・絵はがきとは別に後日「送付先住所」へ送付いたします。

※領収書は払込用紙(郵便局)受領書をもってかえさせていただきます。

※「ご連絡先番号」内TEL欄には、日中に連絡が可能な電話番号をご記入ください。

※本情報は、ポスター・絵はがき発送業務にのみに使用します。

※荷物送付について、受付の時間(午前・午後)によって、発送に時間を要する場合がございます。

あらかじめご了承ください。

本会記入欄

No	受付	転送	担当



<本件に関するお問い合わせ>

(公財)全日本仏教会 広報文化部

〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-4 明照会館 2 階

TEL:03-3437-9275 FAX03-3437-3260

仏壇・墓石・みこし

TOA トーア

☎ 0120-00-1930

本社／新潟県長岡市寺島817

長岡本店(0258)28-1930

新潟県庁前店(025)288-1930

中之島工場(0258)66-5193

長岡中央店(0258)33-1930

上越店(025)522-0139

南魚沼店(025)772-8193